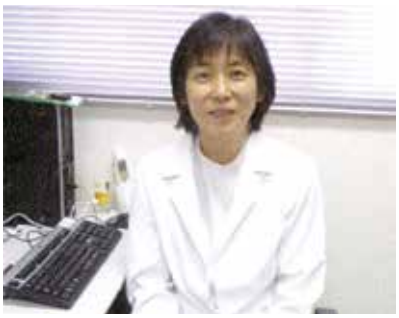
08

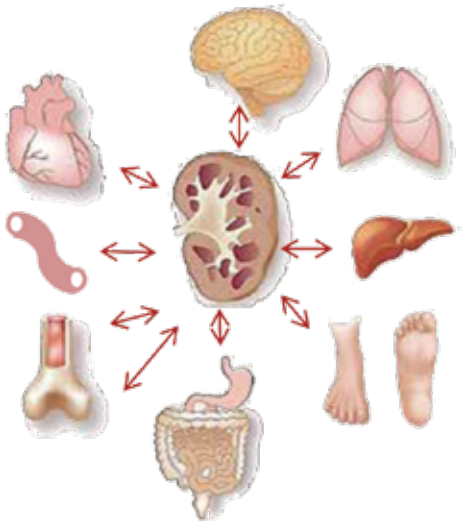
内科部門

腎臓内科



全身臓器を考えた診療。これが腎臓内科の醍醐味です。

腎臓生理学の父として知られるHomer Smith が、腎臓は体内環境のMaster Builderであると表現したことからわかるように、約80年前から腎機能悪化は多臓器に悪影響を与えることが知られています。心腎連関の存在が明らかとなり、早くも12年が経過しました。現在では肺腎連関、腸腎連関、および脳腎連関などの造語拡散とともに、多臓器とのつながりで考える腎疾患の病態に注目が集まり、その発症メカニズムや治療戦略に関しての基礎的および臨床的研究が盛んに行われるようになりました。



特集「多臓器とのつながりで考える腎疾患治療」
岩野正之　日内会誌 106:909-972
より抜粋および作図

診断・治療・全ての腎代替療法・Critical care nephrology

腎臓内科の専門領域は非常に幅が広く奥が深いのが特徴です。また成人の８人に１人がCKDと言われ数も多いことが問題となっています。自ら重症度を見極め、腎生検が必要な場合は指導医のもとで腎組織を採取し、診断し、下した診断に基づいて責任を持って集学的治療を施すことを指導します。
腎代替療法については血液透析、腹膜透析、腎臓移植、急性血液浄化（Critical care nephrology）の全てが学べます。
近年、敗血症の定義が変更され、新たに腎機能が診断基準に加わりました（SOFA）。腎臓内科医がAKI・敗血症・ARDSの管理に早期に加わることで生存率が良くなることが報告されています。
これらの背景からCritical care nephrologyに対するニーズが高まっています。

「J-Osler time」で新内科専門医制度に対応

腎臓内科では新内科専門医制度に対応するために「J-Osler time」を設けています。

「J-Osler time」とは

専攻医のduty業務として毎週１回、日勤帯の２時間に「J-Oslerの入力だけ」をする時間のことです。
電子カルテ端末から直接J-Oslerサイトにログインでき、指導医と時間を合わせて相談しながら入力作業が出来るので無駄がありません。
日勤帯内に無理なく着実に最短期間で症例登録・サマリー作成を行っていくことが出来ます。

子育てママさんを応援

「子育てとか心配だけど仕事面もあきらめたくない。」
腎臓内科ではそんなママさんドクターを応援しています。
子育て中でも専門医資格が取れるようサポートプログラムを整備しています。

08 腎臓内科

科　長（研修統括者）

岩野　正之
出身大学　奈良県立医科大学（昭和62年卒）
専門分野　腎臓病学、腎不全

教室の特色

本学の腎臓病態内科学教室は、臨床検査医学講座を母体として平成15年６月に開設された新しい教室です。県内の中心的な腎臓内科の診療・教育・研究の拠点として機能しており、全国的には数少ない腎臓内科の専門的教室の１つです。

教官は血液浄化療法部・検査部の運営を兼任していますが、研修医は検査部とは独立した形で一般内科の幅広い基盤に立った腎臓内科専門医の研修を行うことができます。また、検査部の検査業務を通じて臨床検査専門医の研修も可能です。まだ若い教室だけに個人が尊重されるのが良いところです。関心ある方の応募や問い合わせを歓迎します。

１）診療内容

種々の原因の腎疾患診療を中心に、関連する高血圧と膠原病の診療を行っています。

- 健診時検尿異常
- 糸球体腎炎とネフローゼ症候群
- 種々の代謝性疾患、とくに糖尿病にともなう腎障害
- 高血圧および高血圧性腎硬化症
- 膠原病および膠原病性腎炎
- 慢性腎不全の管理と保存的治療
- 血液浄化療法（血液透析治療、CAPD療法、血漿交換）
- 腎移植の術前術後管理

２）研究内容

- 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、および腎硬化症の臨床病理学的研究。
- 腎培養細胞を用いた腎症の進行要因についての分子生物学的研究。
- 糖尿病性腎症のモデル動物における進行要因の分子病理学的、生化学的研究。
- 長期透析患者の動脈硬化促進因子や骨関節障害についての臨床生化学的・分子遺伝学的研究。

教室員について

１）学内

岩野　正之	教授
木村　秀樹	准教授　検査部長（診療教授）
糟野　健司	准教授
高橋　直生	助教（診療准教授）
小林麻美子	助教
西川　雄大	特命助教
福島佐知子	医員
西森　一久	特命助教
西川　　翔	医員
岩村菜々美	医員
松田　航平	医員
渡邉　佑衣	医員

２）関連病院勤務（９名）

福井県立病院（腎臓内科）	福井厚生病院（腎臓内科）	福井赤十字病院（腎臓内科）
福井総合クリニック	林病院（越前市）	杉田玄白記念公立小浜病院(腎臓内科)
JCHO 勝山総合病院	藤田記念病院（腎臓内科）	木村病院（あわら市）
鈴木クリニック	JCHO 仙台病院	

教職員募集について

若干名、出身大学、卒業年度、年齢は問いません。

申 込 締 切：病院の締切に準ず。

選 考 方 法：面　接

問い合わせ先：岩野正之（科長）
TEL 0776-61-8462
E-Mail : miwano@u-fukui.ac.jp

糟野健司（医局長）
TEL 0776-61-8478、FAX 0776-61-8120
E-Mail : kasuno@u-fukui.ac.jp

研修・勤務プログラム

1	研修１年目	（前期研修） 学内ローテートあるいは学外の研修協力病院で研修
2	研修２年目	（前期研修） （同上）本院では希望により最大11ヶ月の腎臓内科研修が可能
3	研修３年目	大学院生または医員として教室登録。それぞれ研究または臨床活動に比重をおいて腎臓内科専門医としての研鑽を積むことができます。
4	大学院生	４年間のうち最初の１年間は院内の臨床活動を中心に行い、２年目より研究中心となる。研究を中断して赴任することはない。４年終了時での医学博士号の取得を目標にする。
5	医　　員	１年契約で計３～４年間程度の非常勤勤務。院内での診療を中心に研究活動も併せて行い、終了時には学会専門医取得をめざす。夜間大学院生を兼ね、４年間で医学博士号を取得することも可能である。
6	大学院または医員終了後 （卒後５～６年以降）	以下のコースがあり、本人の希望に沿えるよう調整します。臨床医をへて研究職に就くことも可能です。 • 研究職（医学部・大学病院勤務、研究所勤務） • 腎臓専門医：基幹病院の腎臓内科医員勤務（２～３年間勤務後、腎臓内科部長として基幹病院に勤務） • 地域の公的病院の内科医（兼・腎臓内科医）勤務。 • 海外留学：通常は２～３年間。大学院在籍中以降、どの時期からでも可能。ジュネーブ大学病理学・免疫学教室、ペルシンバニア大学・腎臓内科、バンダービルト大学・腎臓内科、米国ワシントン大学腎臓病理研究室など。

専門医研修プログラム（日本腎臓学会指定のプログラムを満たしたものです。）

知 識[1)]

1．形態、機能、病態生理
2．主要徴候
3．疾患分類

診 察[2)]

1．一般的な内科的診察
2．腎の触診、圧痛の評価

検 査[3)]

1．尿検査（定性・沈渣まで）
2．血液生化学検査
3．免疫学的検査
4．腎機能検査
5．画像検査診断（エコー、ＣＴ）
6．病理組織学的検査（腎生検手技と診断）
7．腎内分泌機能検査

治 療[4)]

1．生活指導
2．食事療法
3．輸液・水・電解質管理
4．薬物療法
5．透析用カテーテルの挿入手技
6．血液浄化療法
　a．血液透析
　b．腹膜透析
　c．血漿交換
7．手術療法（指導医の下で経験、見学）
　a．ブラッドアクセス作成
　b．腎臓移植

症 例[5)]

1．腎不全
　a．急性腎不全
　b．慢性腎不全（慢性糸球体腎炎と糖尿病性腎症は５例）
2．水･電解質異常（代謝性アシドーシスは５例）
3．原発性糸球体疾患（慢性腎炎症候群とネフローゼ症候群は各５例）
4．尿細管間質性疾患
5．全身性疾患にともなう腎障害
　a．糖尿病性腎症（５例）
　b．膠原病性腎障害、アミロイドーシス、痛風腎、ANCA関連腎炎、骨髄腫腎（各１例ずつ）
6．高血圧および腎血管障害（本態性高血圧は５例）
7．腎・尿路感染症
8．泌尿器科的腎・尿路疾患[6)]
9．遺伝性腎疾患
10．妊娠の腎に及ぼす影響

1）十分に理解していること。
2）一人で所見が取れる。
3）一人でできる、または、内容を十分に理解している。
4）担当医として受け持つこと、同一治療について５例ずつを目標とする。
5）担当医として同一疾患で２例を目標とする。但し、（　　）に特記したものはそれに従う。
6）診断と紹介が適切にできること。

将来の勤務、関連病院など

全国的に腎臓内科専門医は不足しています。とくに北陸、関西では基幹病院においてさえ欠員が深刻で、関連病院から本講座に大きな期待が寄せられています。

関連病院：県内では福井赤十字病院、福井県立病院、福井県済生会病院、福井総合病院、藤田記念病院、福井厚生病院、林病院（武生）、JCHO 福井勝山総合病院、杉田玄白記念公立小浜病院など多数。県外では、JCHO 仙台病院など多数。

本教室で資格取得可能な専門医

日本腎臓学会　認定教育施設
日本腎臓学会　腎臓移植認定施設
日本透析医学会　専門医制度認定施設
日本臓器ネットワーク　腎臓移植認定施設
日本臓器ネットワーク　臓器提供施設
日本臓器ネットワーク　移植普及組織

給与など

若手医師として臨床研修、研究活動をするための生活基盤を保障する充分な給与所得（医員給与、バイト、外勤など）があります。女性医師については、出産、育児などの家庭生活との両立に配慮しております。

第51回日本腎臓学会西部学術大会の大会長を務めました。

厚生労働大臣感謝状